

topics

畑を見守るフクロウ

01

ネズミ対策の耕種的防除が期待されているフクロウ。相馬管内にはフクロウの巣箱が設置されている園地が見受けられる。

その中のある園地ではフクロウがようやく住み着いた。その巣箱は元地域おこし協力隊の鹿内あかりさんがデザインし、園主は気に入っていた。

園主は「この巣箱に住み着いてくれてうれしい。今後はネズミを捕食し、密度をさげてほしい。」と園主は期待をよせていた。



畑を見回す幼鳥のフクロウ

topics

豊作願いの田植え開始

02

5月17日より、ライスロマンクラブが田植えを開始した。

今年は天候も苗の状態も良く、関係者は今年の出来秋に期待しながら、作業に精が出ると言っていた。

同クラブの佐藤喜久男組合長は「作付面積は毎年減っているが、今年も良い米を作り、少しでも作付面積の増加に繋がっていただけると願っている。」と述べていた。



スムーズな作業の進行に作業員に気合が入る

topics

省力化の確立を目指して

03

五所地区の山内敬三さんの園地では、5月13日にドローンを使った授粉作業が行われた。

当日は(株)北東北スカイテックがドローン进行操作し、約5反歩の作業を10分程で終えることが出来た。

園主の山内さんは「初めて取り組むドローンでの授粉作業だが、課題も見つかったことで、また来年も挑戦していきたい。」とこれからのリンゴの生育に期待をよせていた。



満開の花の上空をドローンが飛び回る

topics

リモート研修会行われる

04

金融共済課では5月27日、本所にて2020年度国庫金振込事務研修が行われた。

この研修は農林中央金庫青森支店が行い、県内JAの10農協金融担当者が一斉にリモート研修での参加となった。コロナウイルスの拡大抑制のための措置であり、研修に参加した職員は「移動せずこのように研修が出来て良い。また機会があればこの様式で参加したい。」と感想を述べていた。



初のリモート会議に集中して参加する職員